

オーディオ実験室収載

バッハ盤を聴く(18)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(18)—

1. 始めに

前報(17)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回は LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンチスタティックも加わり、今回も、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。また、今回も Magic Mat II の導入(2)で報告した Magic Mat II を使用しています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

ARCHIV MA5007 (日本ポリドール)

J.S. バッハ トッカータとフーガニ短調 BWV565

トッカータとフーガへ長調 BWV540

ドーリア調トッカータとフーガ BWV538

トッカータ、アダージオとフーガハ長調 BWV564

ヘルムート・ヴァルヒャ (オルガン)

ARCHIV SLAM-1 (日本グラモフォン)

J.S. バッハ トッカータとフーガニ短調 BWV565

プレリュードとフーガハ長調 BWV547

トリオソナタ第 6 番ト長調 BWV530

トリオソナタ第 1 番変ホ長調 BWV525

ヘルムート・ヴァルヒャ (オルガン)

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

ARCHIV 盤は、ZANDEN のリストでは、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid と DECCA、R、第 4 時定数 Mid の二つがあります。

MA5007 盤 (日本ポリドール) は、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid と DECCA、R、第 4 時定数 Mid で聴き比べてみましたが、前者の方はくっきりと明晰で、後者の方は高音がきつくなるようですので前者を採りました。盤質はよく、ヴァルヒャの弾くシュニットガーのオルガンの響きが明晰に再現されています。

SLAM-1 (日本グラモフォン) は、TELDEC、R、第 4 時定数 Mid と DECCA、R、第 4 時定数 Mid で聴き比べてみましたが、前者の方はソフトで、後者の方はエッジが立つようですので前者を採りました。盤質はよくありませんが、ヴァルヒヤの弾くシュニットガーのオルガンの響きが柔らかく再現されています。マスターは同じと思われませんが、盤による違いは、明確に区別できました。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)と Magic Mat II の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上